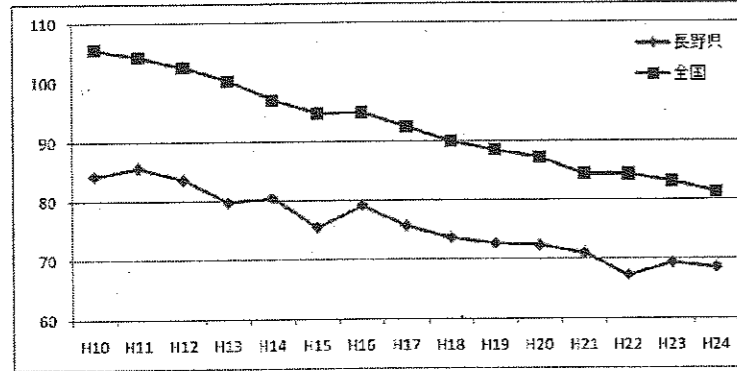


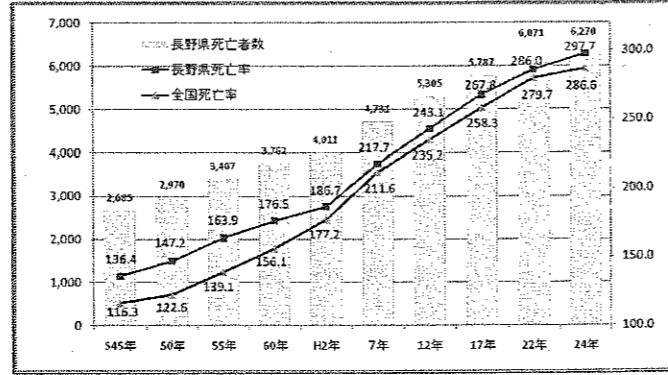
長野県がん対策推進計画（信州保健医療総合計画）における「がん対策」の概要

現状と課題

- ◇ 75歳未満の年齢調整死亡率は全国一低い（H24:68.6、全国81.3）ものの、がんによる死亡者数・死亡率は、増加傾向にある。（H24死亡者数：6,270人、死亡率（人口10万対）：297.7（全国286.6））



75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）※



死亡者数・死亡率（人口10万対）

目指すべき目標

- ◇ がんの年齢調整死亡率（75歳未満）の減少
H29年：60.6
- ◇ すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の向上
- ◇ がんになっても安心して暮らせる社会の構築

※年齢調整死亡率

死亡数を人口で除した死亡率は、高齢者の多い地域で高くなり、若年者の多い地域で低くなる傾向にあるため、年齢構成の異なる地域間の死亡状況の比較ができるよう基準人口（昭和60年モデル人口）で補正した死亡率。

施策の展開

がん予防・がん検診
発症リスク低減と検診受診率の向上

↓ 「がん」になったら

がん医療
高度・先進的な治療から標準的な治療まで

↓ 回復したら

在宅療養
質の高い療養生活の提供（身体及び精神の緩和）

がん患者とその家族を社会全体で支える取組

がん対策総合推進事業（医療）

がんの医療体制

県・地域がん診療連携拠点病院

（6医療圏8医療機関）

- ◇ 手術療法、放射線療法及び化学療法を組み合わせた集学的治療の実施
- ◇ 初期段階からの緩和ケア、緩和ケアチームによる専門的な緩和ケア
- ◇ がん相談支援センターを設置 等

※ 全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん医療の均てん化を目指して整備を推進（2次医療圏に1か所整備）

標準的ながん診療を行う病院

（10医療圏71医療機関）

- ◇ 精密検査や確定診断等の実施
- ◇ 専門治療後のフォローアップ
- ◇ 診療ガイドラインに準じた診療
- ◇ 初期段階からの緩和ケア
- ◇ 疼痛等身体症状の緩和、精神心理的問題の対応 等

がんの医療体制の現状と課題

がん診療連携拠点病院等の整備状況

- ◇ 6医療圏に整備されているがん診療連携拠点病院に対して運営費を補助するとともに機能評価を実施（がん診療連携拠点病院整備事業）
- ◇ がん診療連携拠点病院の指定に向けた体制整備や標準的ながん診療体制の整備に対して支援（がん診療施設設備整備事業）
- ◇ 未整備の4医療圏における、がん相談支援センターを設置する病院に対して運営費を補助（相談連携病院整備事業）

※ 4医療圏（上小、木曾、大北及び北信）において、がん診療連携拠点病院が整備されていない。（放射線治療医の配置などの指定要件について未整備）

在宅がん緩和ケア研修会の実施状況

- ◇ 医師を対象とした緩和ケア研修会を開催（H20～24：826名受講）（在宅がん緩和ケア地域連携事業）

※ 医療従事者の中には、未だに「緩和ケアが終末期ケアである」という誤った認識を持つ者がいる。

医療圏	がん診療連携拠点病院	がん相談支援センター
佐久	佐久総合病院佐久医療センター	
上小		信州上田医療センター
諏訪	諏訪赤十字病院	
上伊那	伊那中央病院	
飯伊	飯田市立病院	
木曾		県立木曾病院
松本	信州大学医学部附属病院 相澤病院	
大北		安曇総合病院
長野	長野赤十字病院 長野市民病院	
北信		北信総合病院

今後の事業の方向性

- ◇ 10医療圏全てに、がん診療連携拠点病院、又は地域がん診療病院（H26新設）を整備し、がんの医療の質の維持・向上を図るため現行事業を継続
- ◇ 医師を対象とした緩和ケア研修会の開催を継続
- ◆ 退職を考えている患者や退職を余儀なくされた患者への就労を支援するため、がん診療連携拠点病院等へ社会保険労務士を派遣し就労相談を実施
- ◆ より多くのがん患者が、がんの先進医療を受けやすくなるよう、がんの先進医療に係る費用の融資を受けたがん患者等に対し利子補給を実施